

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

4月27日

NO、4

パンデミック

ビル・ゲイツが、TED (テッド)・トークで

「次の脅威は戦争ではなく、ウイルスによるパンデミックです。」

と発言したのが2015年のことでした。

その発言から4年後、2019年に中国の武漢で原因不明の肺炎患者が出て、世界的なコロナのパンデミックが始まりました。一人一台端末が急ピッチで準備され、教育界はウイルスとの攻防で、大きくその姿を変えました。

人類はその誕生以来、何度もウイルスとの戦いを経験してきました。

奈良時代、天然痘が大流行しました。藤原4兄弟をはじめ、多くの人々が亡くなりました。東大寺の大仏は、聖武天皇により、その悲劇の終わりへと国家安泰を願って建立されたことをご存じの方も多いと思います。

また、多くの耕作地が放棄され荒地となりました。荒地対策のため、墾田永年私財法が出されました。土地制度の大原則であった公地公民の制がウイルスとの戦いで崩れ去ったという説もあります。

日本だけではありません。14世紀にペストがヨーロッパで大流行しました。特に、1348～53年の6年間で、当時1億人といわれるヨーロッパの人口のうち、2,000万人～3,000万人がペストで死亡したと推定されています。花の都フィレンツェにはペストで亡くなった人の死体があふれ、地方では多くの村が人口減のために廃村となったと言われています。

深刻な労働力不足により、農業の労働形態が大きく変わりました。農奴制が崩壊し、小作農が出現して、農民の地位向上につながったと考えられています。

また、16、7世紀のイギリスでも、ペストは大きな影響を与えました。労働力の減少により、小作農が減少しました。小作料で生活していた地主は、収入を得ることが難しくなってきました。そのために、多くの地主は土地を囲い込み、牧羊に力を入れていきました。

スペイン風邪、今で言うインフルエンザですが、大きな爪痕を人類に残しました。罹患者数は、全人類の50%、死亡者数は30%とも言われています。第1次世界大戦中であり、各国が正確な患者数を発表しなかったため正確な数字は分かりません。スペインだけは、直接戦争に関係なかったため患者数を発表しました。そのために、「スペイン風邪」という名前が付いたそうです。

コロナウイルスに続き、AIが教育を大きく変えようとしています。

以前のように知識量だけの評価は難しくなっています。新たな価値を生み出す創造的な思考が求められています。授業の形も変わっていくでしょう。知識の習得と知識を知恵にする活動。この両面がこれからの教育には必要になります。

榎本小学校 校長 篠崎 勇